

地域で農地を守っていく地域計画策定の取り組み

京都府 南丹市農業委員会 元桐地区連絡会議

1 農業委員会の体制と市町村行政との連携状況

○ 農業委員	:	参加
○ 農地利用最適化推進委員	:	参加
○ 事務局職員	:	不参加
○ 関係団体（名称のみ）	:	—
○ 市町村行政との連携状況	:	毎月1回市役所で 事務局と市担当者、現地推進役等で調整会議を開いている



2 地区の特徴、状況、課題

- 南丹市園部町は旧6町村からなる地域で、元桐地区9集落は全域が市街化調整区域に区分される
- 水稻中心に作付けがされており、農事組合法人による管理がされている集落もあるが、高齢化が進んでおり、後継者の確保が課題となっている。

3 委員による継続した話し合いの取組内容

- 令和5年12月には、地域に在住する農地所有者に対し、意向調査を実施し、現状と課題を明確化した。
- 意向調査を基に令和6年1月に地域計画策定委員会を設立し、地域計画の策定を進めるとともに、中間管理事業の活用に向け、農地の集団化について話し合いを進めている。
- 地区の農業委員、農地利用最適化推進委員が地域に向け、地域計画の取り組みについて資料を作成し、継続して地域内の意向確認等を行っている。

4 成果（地域計画の実行に向けた取組内容）

- 農地所有者の意向を確認し、貸付意向のある農地を明確にし、既存の任意団体、認定農業者等の担い手への集積を進めた。
- 多面的機能支払交付金制度を活用を検討し、地域計画内の農地への獣害フェンスの設置等を行い、農地の保全に努めていく。

※事例候補（地区連絡会議の単位が望ましい）の選定や作成にあたっては、農業会議の現地推進役と相談してください